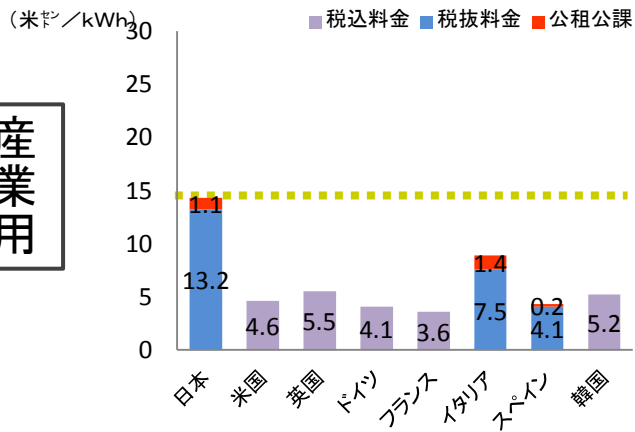


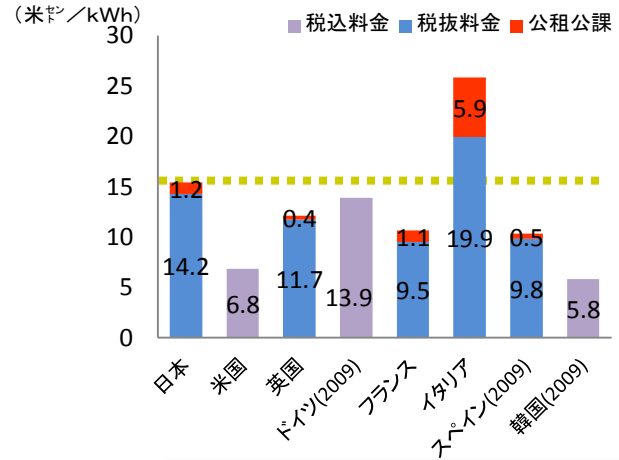
為替レート換算による電気料金比較

○2000年時点では、日本の電気料金は、産業用・住宅用ともに各国と比較して非常に高い。
 ○2010年時点における、日本の電気料金は、ドイツ(家庭用)やイタリアと比較すると低くなり、全体として内外価格差は縮小。他方、米国、フランス、韓国との格差は依然として存在。

産業用



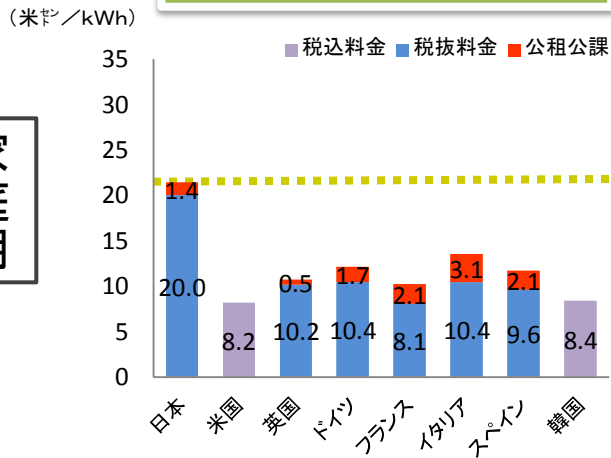
産業用



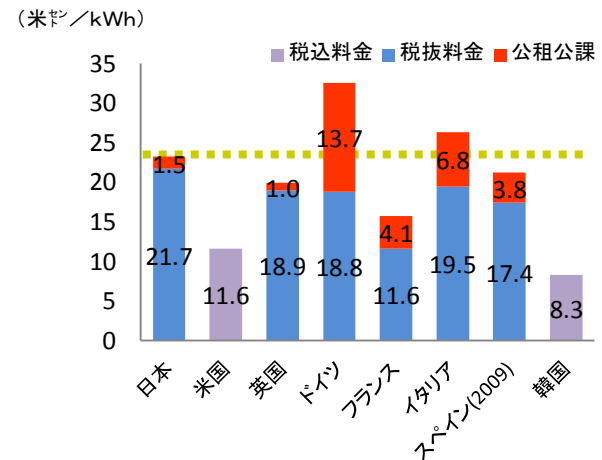
2000年(単純為替換算)

2010年(単純為替換算)

家庭用



家庭用



(参考)本資料で分析対象とした電気料金データについての注記について

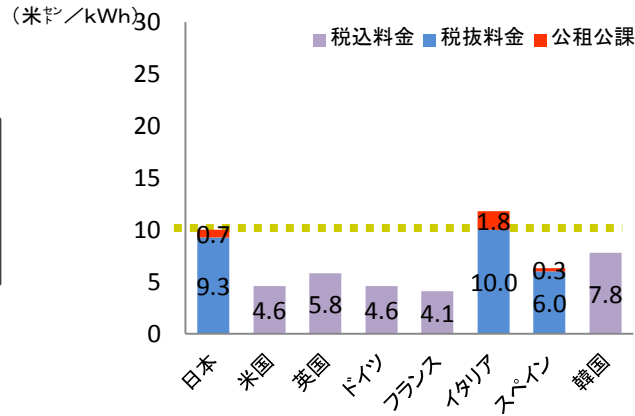
- 原則としてOECD/IEA “Energy prices and taxes 2011” “Energy prices and taxes 2005”を使用。
- 注1) 各国の1年間の使用形態を限定しない平均単価を計算したもの。従量料金部分だけでなく、基本料金部分を含む。
- 注2) 税には消費税、付加価値税だけでなく、FITによる負担金、我が国における電源開発促進税のような目的税も含まれる。
- 注3) 産業用料金の中には、業務用(商業用)の料金を含むものと含まないものがある。日本の産業用料金の中には業務用の料金を含む。
- 注4) フランスにおける2006～2007年の産業用の価格上昇要因は、IEAへの照会によれば同国の価格データ作成の方法の変更に起因するもの。
- 注5) ドイツの電気料金に占める公租公課額はドイツ連邦ネットワーク庁「Bundesnetzagentur, Monitoringbericht - Entwicklung des Strom- und Gasmärktes」より推定

購買力平価換算による電気料金比較

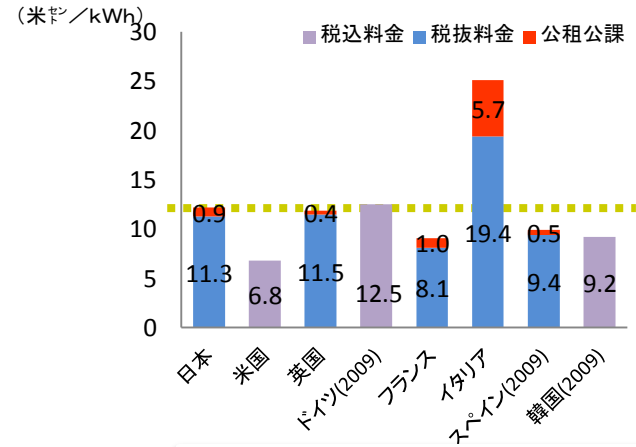
○2000年時点では、日本の電気料金は、産業用・家庭用ともにイタリアよりも低いのが、他の諸外国と比較すると非常に高い。

○2010年時点では、為替レート換算の場合と同じく、内外価格差の縮小傾向が見られる。英国と同水準となった一方、米国、フランス、韓国と比較すると高い。ドイツについては、家庭用料金の水準に比して産業用料金が低くなっており、日本の電気料金と比べて、産業用は安く、家庭用は高い。

産業用



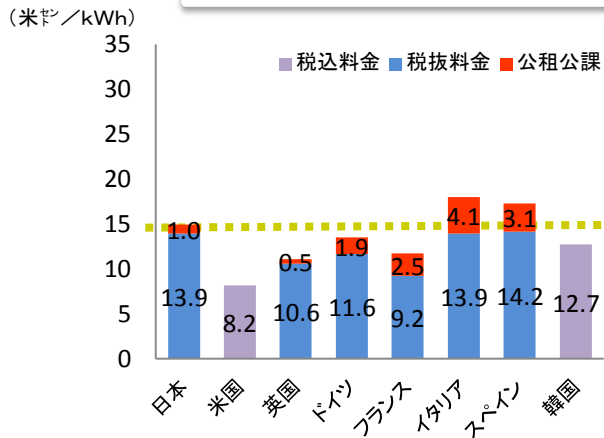
産業用



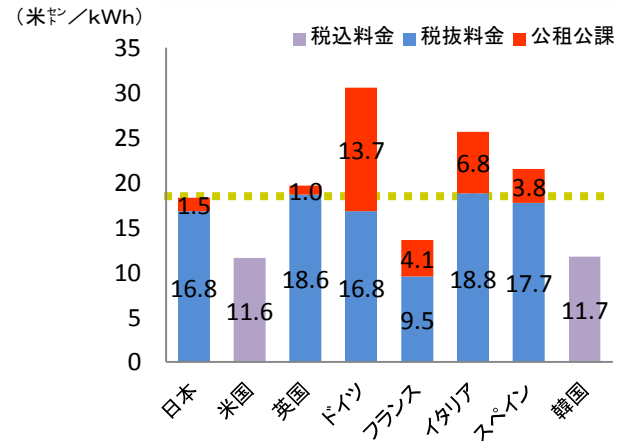
2000年（購買力平価換算）

2010年（購買力平価換算）

家庭用



家庭用



（参考）本資料で分析対象とした電気料金データについての注記について

- 原則としてOECD/IEA “Energy prices and taxes 2011” “Energy prices and taxes 2005”を使用。
- 注1) 各国の1年間の使用形態を限定しない平均単価を計算したもの。従量料金部分だけでなく、基本料金部分を含む。
- 注2) 税には消費税、付加価値税だけでなく、FITによる負担金、我が国における電源開発促進税のような目的税も含まれる。
- 注3) 産業用料金の中には、業務用（商業用）の料金を含むものと含まないものがある。日本の産業用料金の中には業務用の料金を含む。
- 注4) フランスにおける2006～2007年の産業用の価格上昇要因は、IEAへの照会によれば同国の価格データ作成の方法の変更に起因するもの。
- 注5) ドイツの電気料金に占める公租公課額はドイツ連邦ネットワーク庁「Bundesnetzagentur, Monitoringbericht - Entwicklung des Strom- und Gasmärktes」より推定